

医療機器産業ビジョンの目的

背景

- ・ グローバル競争の激化と国際競争力の低下
- ・ 内外価格差問題
- ・ 輸入依存度の上昇
(平成元年23%→平成12年42%)



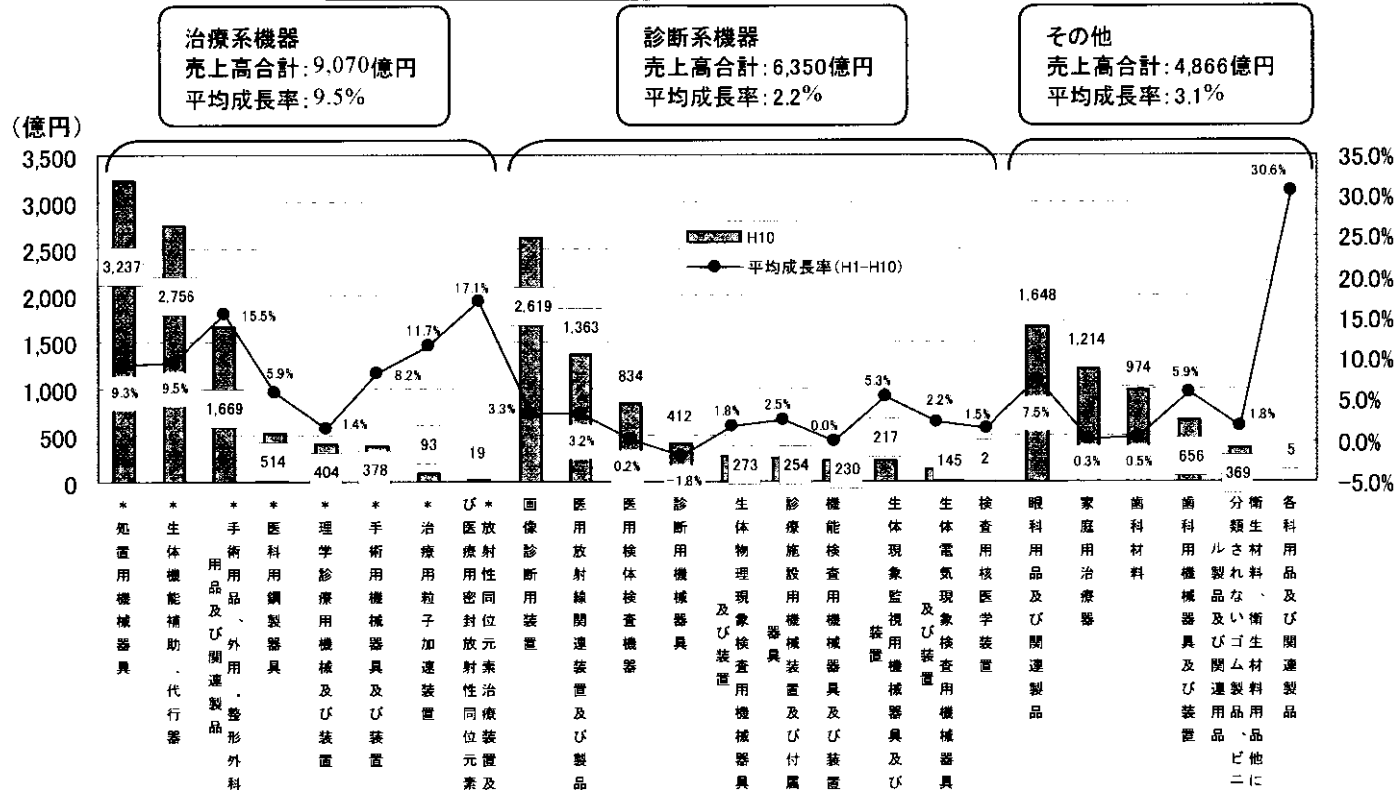
国民の保健医療水準の向上に寄与するために・・・

- ・ 医療機器産業の現状と課題について分析
 - ・ これらについて産業界と認識を共有
 - ・ 各企業に対して国際競争力強化のための行動を呼びかけ
- 国としても具体的な支援策（アクション・プラン）を取りまとめ

医療機器産業の現状と課題

- ・メス・ピンセット、シリンジ、からペースメーカー、CTまで、医療機器企業が扱う医療機器は多種多様であり、取り巻く環境も異なる。
- ・診断系機器と治療系機器に大きく分けると、一般的に治療系機器の成長率が高く、市場規模も大きい。

我が国の医療機器の市場規模：医療機器大分類別



注：*は治療関連機

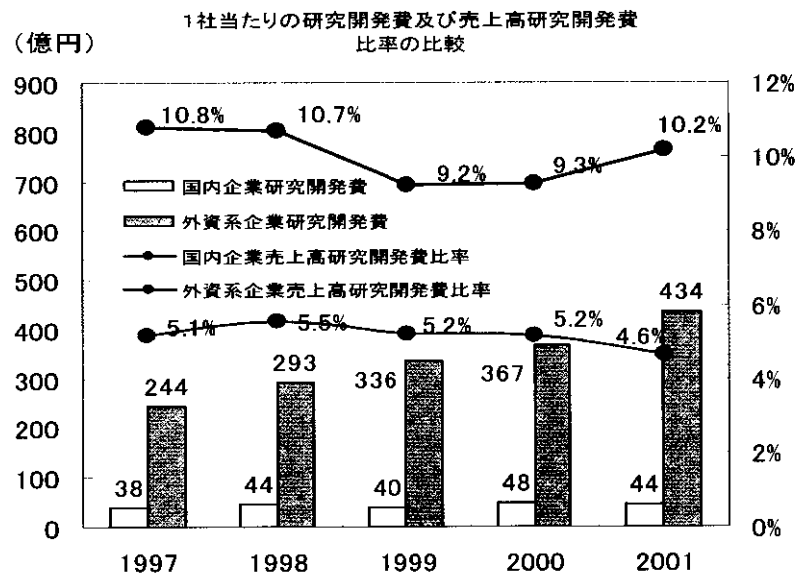
出典：厚生労働省（1999）「薬事工業生産動態統計年報（平成10年）」

○世界的な研究開発競争の激化

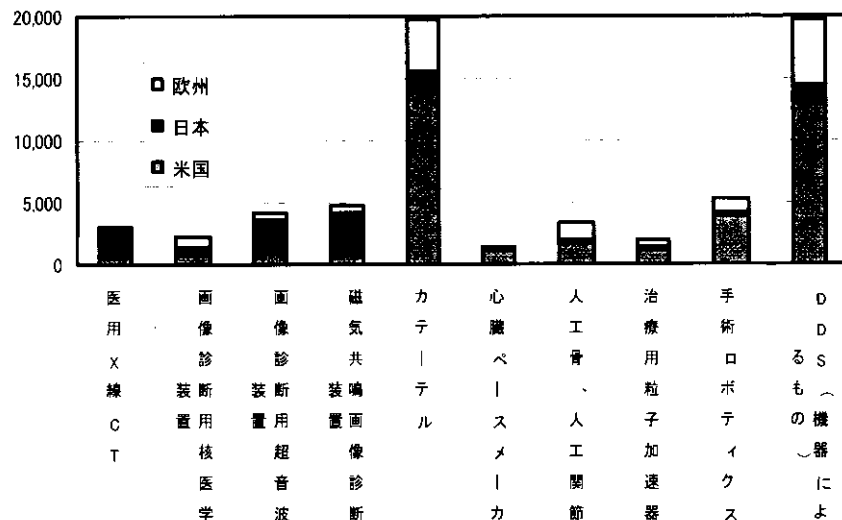
- ・我が国医療機器企業売上高上位数社の1社当たり研究開発費は米国企業比で1997年の6分の1から10分の1に。
- ・また、1社当たり売上高研究開発費比率は低下傾向にあり、米国企業の半分以下。

○特許取得

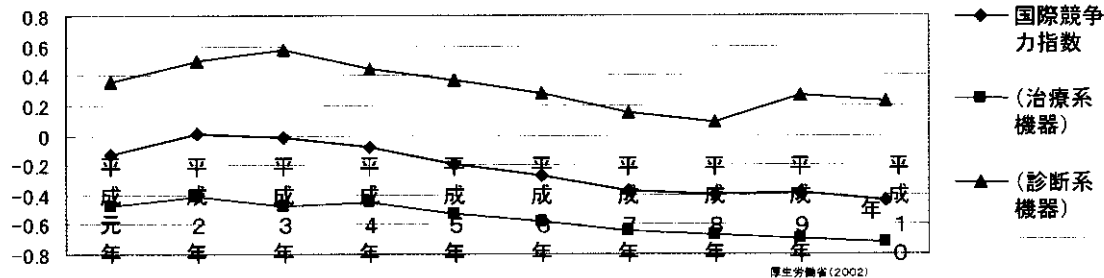
- ・一般に、治療系機器については米国が半数以上を占めている一方、診断系機器については我が国が多数を占めている。



特許取得件数(米国・欧州・日本 H2~H10)



医療機器における国際競争力指数



○国際競争力の低下

- ・国際競争力指数 (= (輸出入収支額 / (輸出額 + 輸入額)) は、平成2年以降下落を続け、そのマイナスの幅は拡大を続けている。
- ・また、医療ニーズが高く成長分野である治療系機器の国際競争力は低下が著しい。

アクション・プラン

